

平成 29 年度

病虫害発生予察情報 第9号 6月月報

北海道病虫害防除所 平成 29 年7月 18 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・並照』上・下旬に雨の日多く、記録的多雨－

この期間の天気は、上旬と下旬は低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った日が多かったが、中旬は高気圧の張り出しの中となつて晴れた日が多かった。気温は中旬は平年より低く、月平均気温は平年並だった。降水量は上旬と下旬は平年よりかなり多く、月降水量もかなり多かった。日照時間は上旬と下旬は平年より少なかったが、中旬は多く、月間日照時間は平年並だった。なお、上旬の降水量は北海道地方とオホーツク海側で 1961 年の統計開始以降最も多く、月降水量も日本海側で 1946 年の統計開始以降最も多かった。

上旬：1～4 日は低気圧や気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は 1 日に苫小牧で 76.5mm、2 日に白老町森野で 60.0mm など。5 日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、その後、6 日にかけて高気圧の張り出しの中となり概ね晴れた。7 日は高気圧の張り出しの中となつてオホーツク海側や太平洋側東部を中心に晴れたが、次第に気圧の谷が接近し、日本海側南部や太平洋側西部では雨の降った所が多かった。8 日は前線を伴った低気圧の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は浦河町中杵臼で 69.0mm など。9 日は低気圧や気圧の谷の影響により日本海側や太平洋側西部で朝夕雨の降った所があったが、日中は概ね晴れた。10 日は上空に寒気を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は豊浦町大岸で 54.0mm など。

中旬：11 日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。12～13 日は高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れたが、12 日は湿った気流の影響によりオホーツク海側で雨の降った所があった。14 日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、大気の状態が不安定となり大雨となつた所があった。15～16 日は気圧の谷の中で大気の状態が不安定となつて広い範囲で雨が降ったが、16 日は次第に高気圧の張り出しの中となつて日本海側や太平洋側西部では晴れた所が多かった。17～20 日は高気圧の張り出しや気圧の尾根の中となつて広い範囲で晴れた。

下旬：21 日ははじめ高気圧に覆われて日本海側やオホーツク海側で晴れたが、次第に気圧の谷が接近し雨の降った所が多かった。日降水量は登別市カルルスで 69.0mm など。22 日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は札幌市手稲山で 94.5mm など。23 日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて太平洋側を中心に晴れた。24 日は低気圧を含む気圧の谷の影響で日本海側やオホーツク海側を中心に雨が降ったが、太平洋側では晴れた所もあった。25 日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は東神楽町志比内で 52.5mm など。26～27 日は高気圧の張り出しの中となつて日本海側南部や太平洋側では晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。28 日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れた。29 日は高気圧の張り出しの中となつてオホーツク海側南部や太平洋側で晴れたが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。30 日は高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れた。

気象表

	気温偏差	階級	降水比	階級	日照比	階級
北海道 22 地点平均	-0.5	並	233%	か多	96%	並
日本海側 10 地点平均	-0.9	低	244%	か多	82%	少
オホーツク海側 4 地点平均	-0.5	並	304%	か多	86%	少
太平洋側 8 地点平均	-0.1	並	183%	か多	119%	多

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の 3 段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 年の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「かーかなり」で表しています。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期（取り置き苗） 並

予察田の「きらら397」における取り置き苗（接種）の初発期は、岩見沢市では平年並、比布町では平年より遅く、北斗市では平年より早かった。「きらら397」の本田での初発は、いずれの地点においても認められていない。

予察田におけるいもち病の発生状況

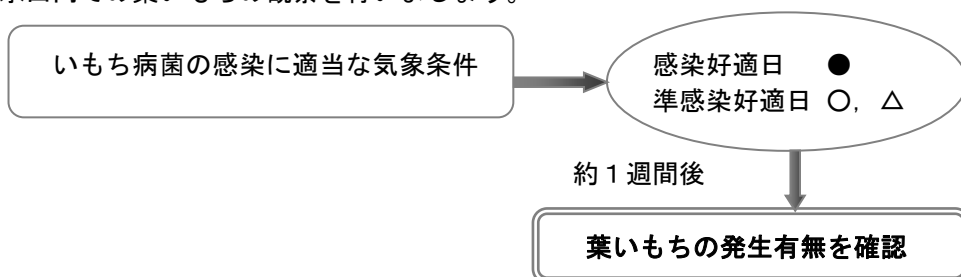
地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月29日	6月29日	未発生	7月24日	6
	ななつぼし	7月2日	6月29日	未発生	7月20日	6
比布町	きらら397	6月26日	6月18日	未発生	7月14日	10
	ななつぼし	6月26日	—	7月10日	—	—
北斗市	きらら397	6月19日	6月26日	未発生	7月18日	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

BLASTAM（ブラスタム）の利用方法

BLASTAMは、アメダスの気象データ（気温・降雨・風速・日照）を利用して、いもち病の感染が起こりやすい日（感染好適日・準感染好適日）を予測するものです。

感染のおよそ1週間後頃から、葉いもち病斑が見えるようになります。好適日から約1週間後に、水田内での葉いもちの観察を行いましょう。



BLASTAM予測結果は防除所のホームページで確認できます！！

2. ヒメトビウンカ（第1回） 発生量 並

予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、比布町で平年並、長沼町では平年より少なかった。北斗市では捕獲されなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田における畦畔すくい取り頭数

月・半旬	畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	1.3	3.8	—	28.9	0	0.8
2半旬	1.3	2.3	40	25.3	0	0.3
3半旬	0	3.8	5	12.5	0	0.0
4半旬	0	1.0	5	4.0	0	0.0
5半旬	0	0.8	—	0.1	0	0.0
6半旬	0	0.0	0	0.3	0	0.0
平年数	5		10		10	

3. イネドロオイムシ 発生期 並 発生量 少

予察田における産卵初発期は長沼町および北斗市で平年並、比布町では平年より遅かった。幼虫初発期は長沼町および北斗市で平年よりやや遅く、比布町では平年より遅かった。卵塊数は長沼町および北斗市で平年並で、比布町では平年より少なかった。幼虫の発生量はいずれの地点も平年より少なかった。

巡回調査では、要防除水準（2卵塊/株）を超える地点は認められていない。

予察田におけるイネドロオイムシの初発期

	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
産卵	6.Ⅲ	6.Ⅲ	6.Ⅳ	6.Ⅱ	6.Ⅲ	6.Ⅲ
幼虫	6.Ⅴ	6.Ⅳ	6.Ⅴ	6.Ⅲ	6.Ⅴ	6.Ⅳ
平年数	5		10		10	

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	卵塊数(25株あたり)						幼虫数(25株あたり)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	—	—	2.7	0	2.0	0	—	—	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.8	—	14.7	0	1.7	0	0.0	—	1.5	0	0.0
3半旬	0	0.6	0	32.5	5.0	5.3	0	0.0	0	17.6	0	5.2
4半旬	0.5	1.1	5	34.7	11.5	16.2	0	4.7	0	107.1	0	39.5
5半旬	6.0	7.8	0	25.2	13.5	5.5	2.0	5.3	0	172.4	26	29.2
6半旬	8.0	9.4	1	16.7	5.0	6.0	4.5	19.8	0	213.8	86	168.3
平年数	5		10		10		5		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの卵塊数(25株あたり)

普及センター		地点数	6月3半旬		6月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
空知	本所	5	2.0	0.04	1.7	0
	南東部	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0
	中空知	4	0.8	1.0	0.8	0.3
	北空知	7	0.9	6.9	1.1	2.7
石狩	本所	5	0	0.8	1.0	2.0
	北部	7	0	0	0.3	0.8
後志	本所	4	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0.8	0

普及センター		地点数	6月3半旬		6月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
日高	西部	3	0	0	0	0
渡島	本所	3	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0
上川	本所	8	0	0	0	0.1
	富良野	2	0.3	0	4.5	0
	大雪	4	0	0.3	0	0.3
	士別	2	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0.3
留萌	本所	3	0	0	0	0
	南留萌	3	0	0	0	0

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第1回) 発生期 やや遅 発生量 少

予察灯による第1回成虫の初誘殺日は、平年と比較して北斗市ではやや早かったが、比布町ではやや遅く、長沼町では遅かった。誘殺頭数は、比布町で平年並だったが、長沼町および北斗市では平年より少なかった。予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、長沼町で平年より少なく、比布町では平年より多かった。北斗市では捕獲されなかった。

巡回調査では、多発生の目安となる畦畔すくい取り捕獲頭数5頭(第1回発生期)を超えた地点は、空知地方の1地点に止まった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における畦畔すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.3	0	1.1	0	0.0	0	0.5	—	0.4	0	1.5
2半旬	0	1.5	0	1.0	0	0.0	0	2.5	0	0.6	0	1.0
3半旬	0	11.7	0	2.2	0	0.6	0	11.0	0	0.9	0	0.8
4半旬	0	11.7	2	1.4	1	4.7	0	7.5	10	0.5	0	2.0
5半旬	2	16.0	3	2.5	1	8.9	1.3	2.0	—	0.0	0	1.3
6半旬	2	24.1	8	2.7	2	12.5	0	4.0	0	0.6	0	2.3
初誘殺日	6月21日	6月14日	6月20日	6月16日	6月16日	6月20日						
平年数	10		10		10		5		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成・幼虫の畦畔すくい取り頭数(20回振り)

普及 センター		地点数	6月6半旬		普及 センター		地点数	6月6半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	5	0	0	日高	西部	3	0	0
	南東部	2	0	0		本所	3	0	0
	南西部	3	0	0	檜山	本所	2	0	2.5
	中空知	4	0.8	0.8		北部	2	0	0
	北空知	7	1.0	2.1	上川	本所	8	0.5	0.5
石狩	本所	5	0.6	0.8		富良野	2	0	0.5
	北部	7	0.4	0.1		大雪	4	0	1.0
後志	本所	4	0	0		士別	2	0	0
	東胆振	4	0	0.3		名寄	3	1.0	0
胆振	本所	3	0	0.3	留萌	本所	3	0	0.3
	南留萌	3	0	0		南留萌	3	0	0

5. フタオビコヤガ(第1回) 発生量 少

予察田において、第1回幼虫はいずれの地点においても認められなかった。幼虫被害は長沼町で平年よりやや多かったものの、比布町および北斗市では6月末時点で被害が認められていない。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)						被害率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	—	—	0.0	0	0.0	0	—	—	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	—	0.2	0	0.0	0	0.0	—	0.2	0	0.0
3半旬	0	0.2	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.0
4半旬	0	0.0	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	1.2	0	0.0
5半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.0	0	0.1	0	1.4	0	0.0
6半旬	0	0.3	0	0.3	0	0.0	4.1	0.3	0	1.4	0	0.0
平年数	5		10		10		5		10		10	

農薬による蜜蜂への被害に注意しましょう!!

蜜蜂は蜂蜜の生産ばかりでなく花粉交配用として非常に重要な生き物ですが、近年、道内では、農薬によると見られる被害が、水田地帯を中心に毎年度発生しており、深刻な状況にあります。

蜜蜂は、蜜を集めるために6kmも飛行すると言われており、農薬散布を予定しているほ場近くで飼われている場合には、巣箱を移動してもらうか、蜜蜂に影響の少ない薬剤を選ぶとともに、気象条件等を勘案し、活動が活発となる時間帯を避けましょう。

また、農薬散布については、使用する薬剤・時期などを養蜂家に的確に情報提供するとともに、事前の話し合いを行うようにしましょう。

国の蜜蜂被害調査結果や関係する通知等については、農林水産省ホームページをご覧ください。
http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee.html

B. 秋まき小麦

1. 赤さび病 発生量 並

予察ほの「きたほなみ」での発生は、長沼町では平年に比べやや多かったものの、芽室町では平年並、訓子府町では平年に比べ少なかった。

巡回調査の報告によると、空知地方の一般ほで発生が認められている。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	全葉	1.26	0.76	10.87	3.80	26.16	16.43	7
		最上位葉	0.00	0.17	1.52	1.20	7.94	11.20	
		最上-1葉	0.66	0.44	5.50	3.31	40.60	18.74	
芽室町	きたほなみ	全葉	0.02	0.36	1.65	0.80	6.77	5.82	8
		最上位葉	0.00	0.00	0.01	0.35	0.19	4.84	
		最上-1葉	0.00	0.17	0.14	0.89	2.88	6.45	
訓子府町	きたほなみ	全葉	0.04	0.04	0.10	0.20	0.56	1.61	8
		最上位葉	0	0	0	0.04	0	0.44	
		最上-1葉	0	0	0.01	0.18	0.09	1.79	

注) 0.00:0.005未満

一般ほにおける赤さび病の巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	普及センター		地点数	病葉率(%)
			6月 3半旬				6月 3半旬
空知	本所	6	1.83	留萌	本所	4	—
	南東部	2	—	網走	本所	8	0
	南西部	5	0		清里	3	0
	北空知	5	—		網走	2	0
石狩	本所	8	—		美幌	5	0
	北部	5	0	遠軽	遠軽	9	0
後志	本所	3	0		紋別	2	0
胆振	本所	3	0	十勝	本所	6	0
	東胆振	3	—		東部	6	—
檜山	本所	2	—		東北部	5	—
	北部	2	—		北部	3	0
上川	本所	3	0		西部	3	0
	富良野	3	0		南部	3	—
	大雪	3	—				
	士別	3	0				
	名寄	2	0				

注1) —:調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率:最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

2. うどんこ病 発生量 少

予察ほの感受性品種「チホクコムギ」における発生は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点でも平年に比べ少なかった。主要品種「きたほなみ」での発生は、長沼町では認められず、芽室町および訓子府町では平年より少なかった。

巡回調査の報告によると、6月3半旬時点では上川地方の一般ほで発生が認められている。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	全葉	0.08	7.50	0	7.91	—	13.46	10
		最上位葉	0	0.66	0	2.12	0.02	5.81	
		最上-1葉	0.08	4.67	—	11.34	—	22.97	
	きたほなみ	全葉	0	0.34	0	0.37	0	0.37	7
		最上位葉	0	0	0	0.01	0	0.10	
		最上-1葉	0	0.03	0	0.11	0	0.25	
芽室町	チホクコムギ	全葉	0.07	8.07	1.51	13.40	10.86	17.36	10
		最上位葉	0.02	1.13	0.59	4.79	3.83	11.41	
		最上-1葉	0.09	6.52	1.11	14.46	15.16	25.52	
	きたほなみ	全葉	0	0.11	0.00	0.15	0.00	0.22	8
		最上位葉	0	0.00	0	0.01	0	0.03	
		最上-1葉	0	0.03	0	0.07	0	0.14	
訓子府町	チホクコムギ	全葉	2.09	7.04	4.49	9.06	5.93	13.18	10
		最上位葉	0	0.06	0.12	1.21	1.18	3.04	
		最上-1葉	0.31	1.94	2.46	6.63	6.46	15.47	
	きたほなみ	全葉	0.00	0.15	0.01	0.28	0	0.96	8
		最上位葉	0	0	0	0.01	0	0.04	
		最上-1葉	0	0.01	0	0.08	0	0.35	

注1) —:調査不能

注2) 0.00:0.005未満

一般ほにおけるうどんこ病の巡回調査結果

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		6月	3半旬
空知 本所	6	—	
	南東部	2	—
	南西部	5	0
	北空知	5	—
石狩 本所	8	—	
	北部	5	0
後志 本所	3	0	
胆振 本所	3	0	
	東胆振	3	—
檜山 本所	2	—	
	北部	2	—
上川 本所	3	0	
	富良野	3	0
	大雪	3	—
	士別	3	16.7
	名寄	2	0

普及センター	地点数	病葉率(%)	
		6月	3半旬
留萌 本所	4	0	
網走 本所	8	0	
	清里	3	0
	網走	2	0
	美幌	5	0
	遠軽	9	0
紋別	2	0	
	十勝 本所	6	0
十勝 東部	6	—	
	東北部	5	—
十勝 北部	3	0	
	西部	3	0
十勝 南部	3	—	

注1) —:調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率:最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

3. アブラムシ類 発生期 やや遅 発生量 少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの初発期は、両地点ともに平年よりやや遅かった。ムギクビレアブラムシの初発期は長沼町で平年並だった。訓子府町では発生を認めていない。長沼町の予察ほにおける両種の発生量は平年よりやや少なかった。訓子府町におけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は平年より少なかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月2半旬	0	0.0	—	0.0	0	0.0	—	1.7
3半旬	0	0.2	0	0.5	0	0.0	0	0.2
4半旬	0	2.8	0	0.9	0	0.2	0	1.1
5半旬	1	1.4	0	12.2	0	0.1	0	0.8
6半旬	0	3.6	2	14.0	0.5	4.2	0	1.9
初発期	6.V	6.IV	6.VI	6.V	6.VI	6.VI	—	6.V
平年数	10		9		10		9	

注)25穂あたりの寄生虫数

C. 春まき小麦

1. ムギキモグリバエ 発生量 並

予察ほの春まき小麦における成虫すくい取り数は、長沼町および比布町で平年並であった。

予察ほの春まき小麦におけるムギキモグリバエのすくい取り頭数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	42.5	9.8	—	112.0
2半旬	7.5	28.3	140	148.8
3半旬	5.0	16.9	55	87.0
4半旬	6.3	9.0	10	23.5
5半旬	2.5	8.3	—	5.3
6半旬	0	3.8	45	4.1
平年数	5		8	

注)20回振り×5日分換算値

D. 豆類

1. タネバエ（大豆） 発生量 並

予察ほの大豆における被害個体率は、長沼町で平年よりやや高く、訓子府町では平年並であった。

予察ほにおけるタネバエの被害状況

	長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年
被害個体率(%)	50.7	31.3	6.0	4.8
健全個体率(%)	49.0	61.4	93.3	86.7
他不出芽(%)	0.3	7.2	0.7	8.5
平年数	10		9	

注)他不出芽:タネバエ被害以外の不出芽を示す

2. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆) 発生期 並 発生量 少

黄色水盤におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町で平年よりやや早く、訓子府町では平年並で、芽室町では平年より遅かった。黄色水盤における捕獲数は、長沼町、訓子府町ともに平年より少なかった。

予察ほの大豆における寄生虫数は、芽室町で平年よりやや多く、長沼町および訓子府町では平年より少なかった。

黄色水盤によるジャガイモヒゲナガアブラムシの誘殺頭数と初発期

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	2.9	0	0.7	0	0.6
2半旬	0	9.1	0	2.1	0.5	1.3
3半旬	2	4.5	0	0.6	0	0.8
4半旬	0	3.6	0	0.7	0	0.7
5半旬	0	3.6	0	0.3	0	0.5
6半旬	0	1.0	0	0.1	0	0.8
初発期	5.V	5.VI	7.II	6.I	6.II	6.II
平年数	10		10		10	

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生状況

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	-	-	-	0.0	-	0.0
2半旬	-	5.0	-	0.7	-	0.5
3半旬	-	11.2	0	0.0	0	5.0
4半旬	0	9.2	8	1.6	0	3.1
5半旬	1	9.6	1	1.6	1	3.3
6半旬	3	5.9	6	3.0	0	4.2
平年数	10		10		9	

注)25株2小葉(計50小葉)あたりの寄生虫数

3. マメアブラムシ(小豆) 発生量 少

予察ほにおける初発は、芽室町で6月2半旬(平年:6月6半旬)と平年より早かった。芽室町の予察ほの小豆における寄生株率は、平年よりもやや低かった。長沼町、訓子府町では寄生が認められなかった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月2半旬	-	0.0	1.0	0.0	-	0.0
3半旬	-	1.1	0	0.3	0	0.0
4半旬	0	11.0	0.5	0.9	0	0.6
5半旬	0	18.2	1.0	1.8	0	3.1
6半旬	0	19.1	1.0	9.2	0	8.4
平年数	9		10		9	

E. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 —

予察ほにおける初発期は、芽室町の「とうや」で平年よりやや早く、「スノーマーチ」では早かった。訓子府町の「とうや」では平年より早かった。長沼町、北斗市では未発生である。

巡回調査の報告によると、胆振地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける疫病の初発期

地点	品種名	本年	平年	平年数
長沼町	とうや	未発生	7月15日	9
	スノーマーチ	未発生	7月22日	8
北斗市	とうや	未発生	7月8日	9
芽室町	とうや	7月6日	7月9日	9
	スノーマーチ	7月5日	7月12日	9
	男爵薯	7月5日	7月8日	10
	紅丸	7月3日	7月8日	10
訓子府町	とうや	7月6日	7月14日	9
	スノーマーチ	未発生	7月13日	8

一般ほにおける疫病の巡回調査結果

普及センター		調査 地点数	発病株率(%)	
			6月6半旬	
空知	南東部	1	0	
後志	本所	4	0	
胆振	本所	2	0.5	
渡島	本所	2	0	
檜山	本所	2	0	
	北部	4	0	
上川	富良野	3	0	
	大雪	3	0	
	士別	2	0	
	名寄	1	0	

普及センター		調査 地点数	発病株率(%)	
			6月6半旬	
網走	本所	6	0	
	清里	3	0	
	網走	2	0	
	美幌	2	0	
十勝	本所	5	0	
	東部	6	0	
	東北部	1	0	
	北部	3	0	
	西部	3	0	
	南部	3	0	
釧路	本所	4	0	
根室	北根室	3	0	

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町および訓子府町で平年より少なかった。芽室町では発生が認められなかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町で平年並だった。芽室町および訓子府町では発生が認められなかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点でも初発を認めなかった。

巡回調査では、全 65 地点中 7 地点で寄生が認められた。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6 月 1 半旬	0	0.7	-	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2 半旬	0	1.4	0	0.0	0	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3 半旬	0	1.5	0	0.2	0.5	0.6	0	0.2	0	0.0	0	0.0
4 半旬	0	1.2	0	0.1	0	1.0	0.5	0.4	0	0.0	0	0.6
5 半旬	0	2.5	0	0.1	2.5	3.1	6.0	1.2	0	0.0	0	0.0
6 半旬	1	2.5	0	1.5	0.5	9.1	1.5	3.5	0	0.0	0	0.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20 株各 2 複葉、合計 40 複葉を調査。虫数は 10 株 20 複葉あたり換算虫数

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及 センター		地点数	6 月 3 半旬	6 月 6 半旬
空知	南東部	1	0	0
後志	本所	4	0	0
胆振	本所	2	0	0
渡島	本所	2	1.0	2.0
檜山	本所	2	0	0
	北部	4	0	0.3
上川	富良野	3	0	0
	大雪	3	0	0
	士別	2	0	0
	名寄	1	0	0
網走	本所	6	0	0
	清里	3	0	3.3
	網走	2	0	0.5
	美幌	2	0	0
十勝	本所	5	0	0
	東部	6	0	0
	東北部	1	0	0
	北部	3	0	0
	西部	3	0	0.3
	南部	3	0	0
釧路	本所	4	0	0
根室	北根室	3	0	0

注) 調査株数は 10 株 20 複葉

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 早

＜7月7日付け注意報第3号＞

予察ほにおける初発期は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点においても平年より早かった。

予察ほにおける褐斑病の発生状況

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	ライエン(HT-39)	7月5日	—	—
	あまいぶき	7月4日	7月11日	7
芽室町	リッカ	7月6日	—	—
	あまいぶき	7月6日	7月13日	5
	スタウト	7月6日	7月17日	8
訓子府町	リッカ	7月3日	7月12日	8

注) —:平年値なし

2. ヨトウガ(第1回) 発生期 やや遅 発生量 並

予察ほにおける産卵の初発期は、長沼町で平年並だったが、芽室町では平年より遅かった。訓子府町では産卵が認められなかった。卵塊数は、長沼町および芽室町で平年より少なかった。食害程度は長沼町で平年よりやや高かったものの、芽室町では平年よりも低く、訓子府町では食害が認められなかった。

巡回調査によると、被害株率は最も高い地点でも44%で、要防除水準(被害株率50%)に達した地点はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの産卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	3.6	0	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	1	5.8	0	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	3	6.8	0.5	2.1	0	0.9	0	0.5	0	0.4	0	0.0
5半旬	1	3.0	0	1.6	0	0.5	8	8.4	0	3.4	0	0.3
6半旬	0	1.5	0	0.6	0	0.7	32	15.3	0.5	7.4	0	1.4
初発期	6.Ⅱ	6.Ⅱ	6.Ⅳ	6.Ⅱ	—	6.Ⅳ						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及 センター		地点数	6月6半旬	
			本年	昨年
空知	南東部	1	0	0
石狩	本所	3	18.7	15.0
後志	本所	3	0.7	0
胆振	本所	4	2.5	8.3
	東胆振	3	4.0	4.3
上川	富良野	3	3.3	0
	大雪	3	1.7	1.7
	士別	1	7.0	0
	名寄	2	18.0	8.0

普及 センター		地点数	6月6半旬	
			本年	昨年
網走	本所	10	3.1	3.6
	清里	3	3.0	2.3
	網走	2	0	14.0
	美幌	5	0	0
	遠軽	9	2.7	1.7
十勝	本所	5	2.4	3.0
	東部	6	0.5	1.3
	東北部	4	8.0	0
	北部	3	0	0.7
	西部	3	0	1.7
	南部	3	0	0

注)50株調査

3. テンサイトビハムシ 発生量 並

予察ほにおける食害程度は、長沼町および訓子府町で平年並、芽室町では平年より低かった。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの食害程度

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	26	25.4	6	13.3	20	23.1
2半旬	30	25.6	5	13.4	23	24.7
平年数	10		10		9	

4. テンサイモグリハナバエ 発生量 少

予察ほでは、いずれの地点においても被害が認められなかった。

予察ほにおけるテンサイモグリハナバエの被害葉率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.2	0	0.0
4半旬	0	0.2	0	0.4	0	0.1
5半旬	0	0.2	0	0.7	0	0.1
6半旬	0	0.1	0	0.7	0	0.2
平年数	10		10		9	

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生期 並 発生量 やや多

予察ほにおける初発期は、長沼町で平年並、訓子府町では平年より遅かった。6月6半旬における発生量は、長沼町では平年に比べてやや多く、訓子府町では平年並だった。

巡回調査の報告によると、空知地方の1地点で発生量が多いほか、オホーツク地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける白斑葉枯病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	6月20日	6月18日	0	0	1.0	6.4	33.0	20.2	7
訓子府町	北もみじ2000	6月27日	6月21日	0	0	0	0.7	2.0	4.2	5

一般ほにおける白斑葉枯病の巡回調査結果

普及センター		調査 地点数	発病株率(%)	普及センター		調査 地点数	発病株率(%)
			6月6半旬				6月6半旬
空知	本所	5	0	上川	富良野	4	0
	南東部	3	44.4		士別	2	14.0
	南西部	2	0	網走	本所	8	0.5
	中空知	1	3.0		美幌	4	0
石狩	北部	2	0		遠軽	3	0.7
				十勝	東部	1	0

2. ネギアザミウマ 発生期 やや遅 発生量 少

予察ほにおける幼虫の初発期は、長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや遅かった。寄生幼虫数は、長沼町、訓子府町とともに平年より少なかった。被害程度は、訓子府町で平年より低かった。長沼町では被害が認められなかった。

巡回調査によると、多発生（寄生株率 51%以上）となる地点は認められなかった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	幼虫数(25 株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.5
2半旬	0	0.7	0	0.0	0	1.7	0	4.2
3半旬	0.2	1.8	0	3.3	0	2.9	1	8.1
4半旬	0	12.4	0	23.0	0	6.2	6	22.9
5半旬	0	95.5	9	93.3	0	12.3	11	31.9
6半旬	0	219.2	66	562.9	0	19.6	18	42.7
初発期	6.III	6.III	6.V	6.IV	7.I	6.II	6.III	6.I
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率（％）

普及 センター		地点数	6 月 6 半旬		普及 センター		地点数	6 月 6 半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	5	0.0	15.2	上川	富良野	4	3.0	6.0
	南東部	3	0.0	0.3		士別	2	0.0	14.0
	南西部	2	2.0	0.0	網走	本所	8	0.0	4.0
	中空知	1	2.0	0.0		美幌	4	6.0	5.5
石狩	江別	2	22.0	5.0		遠軽	3	2.7	2.7
注) 25 株調査					十勝	東部	1	0.0	12.0

H. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年よりやや少なく、北斗市では平年並だった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6 月 1 半旬	5	6.9	4.8	4.7
2 半旬	11	23.7	2.0	5.3
3 半旬	19	29.6	2.4	5.8
4 半旬	11	34.3	4.8	7.0
5 半旬	13	19.2	5.2	2.4
6 半旬	6	12.2	6.8	3.1
平年数	10		10	

注) 10 株あたりの寄生虫数

2. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる誘殺頭数は、訓子府町で平年よりやや多く、長沼町では平年並、北斗市および芽室町では平年よりやや少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市で平年より少なく、長沼町では平年並であった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6 月 1 半旬	9.0	34.9	34	61.6	7.0	13.6	14.0	7.1
2 半旬	1.6	42.1	42	41.4	4.7	5.9	6.7	6.5
3 半旬	115.3	31.2	25	50.1	4.3	3.6	5.3	4.7
4 半旬	35.0	31.2	35	30.8	4.0	5.9	4.0	5.0
5 半旬	32.0	64.1	23	42.7	4.0	7.9	8.0	3.3
6 半旬	47.7	67.2	38	29.4	3.0	10.6	11.0	2.0
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.7	0.8	1.7
2半旬	5	13.4	1.6	5.5
3半旬	24	38.7	0	11.5
4半旬	7	49.5	0.4	7.8
5半旬	40	34.8	4.8	24.4
6半旬	81	51.2	9.2	14.8
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数

I. りんご

1. モニリア病 発生量 少

長沼町（無防除）および余市町（慣行防除）の予察園では、モニリア病の発生は認められなかった。巡回調査の報告によると、一般園においても発生は認められていない。

予察園（長沼町）におけるモニリア病の発生状況

品種名	昂林			
	実腐花葉叢率(%)		株腐花葉叢率(%)	
調査時期	本年	平年	本年	平年
落花10日後	0	0		
落花20日後			0	0

平年値は8年の平均値

予察園（余市町）におけるモニリア病の発生状況

地点	品種名	調査時期	葉腐花葉叢率(%)		平年数
			本年	平年	
余市町B	つがる	6月1週目	0	0.22	10
		6月2週目	0	0.05	
		6月3週目	0	0.07	
余市町C	王林	6月1週目	0	—	—
		6月2週目	0	—	
		6月3週目	0	—	

注) 余市町の予察園は慣行防除

2. 黒星病 発生期 早 発生量 多 <6月12日付け注意報第2号>

長沼町の予察園（無防除）における初発期は、「昂林」、「つがる」ともに平年より早かった。また、余市町Bの予察園（慣行防除）の初発期も平年より早かった。発生量は、長沼町の予察園では両品種とも平年に比べ多かった。余市町Bでは平年より多く、余市町C（慣行防除）では未発生である。

巡回調査の報告によると、後志、渡島地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察園(長沼町)における黒星病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	昂林	6月1日	6月18日	8
	つがる	6月1日	6月18日	8
余市町B	つがる	6月20日	7月10日	10
余市町C	王林	未発生	—	—

予察園(長沼町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)											
		6月1半旬		6月2半旬		6月3半旬		6月4半旬		6月5半旬		6月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	昂林	2.15	0	7.26	0	22.84	0.57	40.56	2.04	47.81	4.42	48.18	8.34
	つがる	0.35	0	0.34	0	2.97	0.56	9.57	2.50	10.25	4.73	12.08	9.47

注) 平年数は8年

予察園(余市町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		6月1週目		6月2週目		6月3週目		6月4週目		6月5週目	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町B	つがる	0	0	0	0	0	0	0.88	0	1.47	0.003
余市町C	王林	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注) 余市町の予察園は慣行防除

一般園における黒星病の巡回調査結果

普及センター		調査 地点数	発病葉率(%)	
			6月3半旬	6月6半旬
後志	北後志	3	0	1.17
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	5.60
留萌	南留萌	1	0	0

3. 斑点落葉病 発生期 並 発生量 並

長沼町の予察園(無防除)の「王林」における初発期は、平年並であった。発生量は平年並であった。
余市町Cの予察園(慣行防除)の「王林」では発生を認めていない。

予察園(長沼町)における斑点落葉病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	王林	6月30日	6月28日	7

予察園(長沼町)における斑点落葉病の発生状況

地点	品種名	新梢病葉率(%)						平年数
		6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林	0	0	0	0.23	0.88	0.52	7

4. ハマキムシ類 発生期 並 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの初誘殺日は、長沼町で平年よりやや遅く、余市町Aでは平年並、余市町Bでは平年よりやや早かった。リンゴモンハマキの初誘殺日は、長沼町で平年より遅く、余市町A、同Bでは平年並だった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺頭数は、長沼町および余市町Aで平年より少なく、余市町Bでは平年並だった。リンゴモンハマキの誘殺頭数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町Aでは平年並、余市町Bでは平年より少なかった。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺頭数は、岩見沢市、壮瞥町、七飯町では平年並だったが、札幌市および旭川市では平年よりやや少なかった。伊達市では誘殺が認められていない。リンゴモンハマキの誘殺頭数は、岩見沢市、壮瞥町、七飯町では平年並だったが、札幌市および伊達市で平年よりやや少なかった。

フェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺頭数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.4	0	0.1
2半旬	0	1.2	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0.6	3.2	0	1.3
3半旬	0	3.6	0.3	0.1	0	0.0	0	4.3	3.0	3.4	0	2.7
4半旬	2	18.9	0.7	1.7	0	0.3	1	13.9	6.4	2.9	5.0	4.6
5半旬	9	20.2	0	3.6	3	0.8	29	33.9	0.7	3.7	0	2.6
6半旬	16	23.8	0.4	5.1	0	2.3	27	38.9	0.7	3.3	0	1.6
初誘殺日	6月20日	6月16日	6月20日	6月20日	6月21日	6月25日	6月20日	6月14日	6月13日	6月12日	6月19日	6月17日
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.5
3半旬	0	1.5	1.5	1.3	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	3.5
4半旬	0	2.6	2.5	5.2	0	0.3	0.1	0.4	1	1.6	7	11.5
5半旬	2.5	3.3	3.3	13.0	0	1.5	0.7	0.7	0	2.4	5	8.8
6半旬	4.0	1.6	3.8	10.1	0	3.2	2.4	3.1	4	5.1	4	5.6
平年数	10		10		10		10		8		6	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町・旭川市1地点

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
2半旬	0	0.1	0.7	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.2
3半旬	0	0.3	0.3	0.6	0	0.1	0.9	0.0	1.5	0.9
4半旬	0	0.5	0	1.4	0	0.7	1.1	0.3	0.9	0.7
5半旬	0	0.7	1.5	5.2	0	2.7	0	0.8	2.1	1.4
6半旬	1.5	1.8	6.5	11.3	4.0	6.6	1.1	1.2	5.4	2.1
平年数	10		10		10		10		8	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町1地点

5. モモシンクイガ 発生期 並 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによる初誘殺日は、長沼町および余市町Aで平年並、余市町Bでは平年よりやや遅かった。誘殺頭数は、長沼町および余市町Aで平年より少なく、余市町Bでは平年並だった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、岩見沢市、札幌市、七飯町で平年並だったが、伊達市および壮瞥町、旭川市では平年よりやや少なかった。

予察園におけるフェロモントラップによるモモシンクイガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.1	0	0.2	0	0.2
3半旬	0	0.8	0.3	1.1	0	0.5
4半旬	1	3.3	0.7	3.0	3	3.9
5半旬	1	7.4	1.4	6.9	1	7.1
6半旬	1	16.2	2.3	12.9	14	13.0
初誘殺日	6月20日	6月18日	6月20日	6月19日	6月20日	6月17日
平年数	10		10		10	

注) 余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるフェロモントラップによるモモシンクイガの誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.4	0	0.3	0	0.1	0	0.3
4半旬	0	0.1	0	0.3	0.4	1.0	0.4	1.7	0.1	0.1	0	1.0
5半旬	0	0.6	1.5	2.3	2.1	3.2	2.1	4.2	0.7	0.2	4	4.0
6半旬	1	1.2	3.5	3.1	4.4	7.6	1.6	7.3	0.1	0.7	3	9.0
平年数	10		10		10		10		8		9	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町・旭川市1地点

6. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリンゴハダニおよびナミハダニの発生は、長沼町、余市町A、同Bのいずれの地点においても認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.6	—	0.0	—	0.0	0	0.0	—	0.3	—	0.0
2半旬	0	0.8	0	0.1	0	0.8	0	0.0	0	0.3	0	0.0
3半旬	0	0.1	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0
4半旬	0	0.1	0	0.5	0	0.3	0	0.2	0	0.3	0	3.3
5半旬	0	0.3	—	0.2	—	0.0	0	0.0	—	1.0	—	3.2
6半旬	0	0.5	0	0.8	0	0.3	0	0.2	0	6.7	0	2.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 30 葉あたりの寄生虫数

注 2) 余市町の予察園は慣行防除

7. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、長沼町で平年より少なく、余市町A、同Bでは平年並だった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、壮瞥町では平年より多かったが、伊達市および七飯町では平年より少なかった。岩見沢市、札幌市、旭川市では捕獲されなかった。

予察園におけるフェロモントラップによるキンモンホソガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.8	1.9	3.4	3	1.5
2半旬	0	0.3	1.5	1.4	1	0.6
3半旬	0	0.2	0.9	0.4	0	0.2
4半旬	0	0.3	0	1.3	0	3.9
5半旬	2	8.3	28.6	8.4	30	14.0
6半旬	0	8.3	63.7	110.4	60	57.7
平年数	10		10		10	

注)余市町の予察園は慣行防除

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	5.5	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	6.2	0	0.0
2半旬	0	2.1	0	0.3	0	1.3	0	0.1	0	2.0	0	0.0
3半旬	0	0.4	0	0.5	0	0.6	0	0.3	0	0.4	0	0.0
4半旬	0	0.7	0	0.6	0	1.2	16.0	0.5	0	1.5	0	0.0
5半旬	0	5.0	0	0.8	0	1.8	80.0	19.8	0	20.4	0	0.2
6半旬	0	32.9	0	0.7	0.6	4.1	233.7	53.0	1	108.9	0	1.0
平年数	10		10		10		10		8		6	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町・旭川市1地点

平成 29 年度

6月15日～8月31日は農薬危害防止運動実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

